

令和3年度 県立コザ高等学校 芸術科（美術Ⅰ）シラバス

教科名：芸術	科目名：美術Ⅰ	担当者：宮里義行
履修学年：1年（芸術選択）		単位数：2単位
目 標	絵画・デザイン・立体・工芸などの幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。 （表現） ア デッサンや色彩・構成、材料や用具の生かし方などの技能 イ 意図に応じた多様な表現方法の工夫 ウ 表現形式の工夫と創造的な表現の構想 エ 機能と美しさや楽しさを考えた主題の生成 （鑑賞） ア 美術作品のよさや美しさ イ 作者の心情や意図と表現の工夫 ウ 生活や地域、自然と美術との関係 エ 日本や沖縄、または西洋の歴史と表現の特質	
教 材	教科書： 光村図書 美術1 その他： 図録各種、参考図書、プリント教材等	
授業方法 及び形態	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書や図録、資料集などの視聴覚教材やプリント教材などを多面的に利用して、実技を中心とした造形学習を行います。 ・演習的な簡易作品の制作からスケッチやデッサン、平面や立体等の長期的計画による課題作品の制作など計画的に実施します。制作後は作品展示による鑑賞や、コンクール出品、展示会等への出品も行う。 ・作品制作の課題が提示されれば、各自資料及び材料等を収集し、アイデアスケッチ等の制作計画を綿密に行うこと。 ・作品提出の締切厳守を心がけること。そのためには、授業中での真剣な取り組みが必要であり、必要に応じて課外制作によって対応すること。 ・夏休みの宿題があります。 	
成績評価 の方法	1 観点別評価に応じた実技課題（作品制作）の評価（約70%） 2 定期考査の得点や宿題・プリント等の提出物の評価（約30%） 3 毎授業の学習意欲や態度及び出席状況 < 観点別評価 > I 美術に親しみ、自ら進んで表現や鑑賞に取り組めたか。 II 感じたことや考えたことから豊かに発想し表現できたか。 III 表現技法の技能を高めたり、新しい技法を創意工夫できたか。 IV 作品の良さや美しさを感じ取ったり味わったりすることができたか。	
担当者 より	美術を選択した皆さん。ようこそ県立コザ高校へ！そして美術の授業へ！ 美術とは、別の言葉で「造形」ともいいます。形を造ると書きます。平面や立体を問わず形を造るのです。目の前にある景色の形を写し取るだけではなく、自ら形を生み出していく。これが美術の本質です。ですから、「絵を描くのが苦手だ」という人でも、どんな形でもいいから新しい形を造るという意識を持って頑張ってください。 本校では、芸術を学ぶ期間は、選択する類型によって変わってきます。2年で理系を選択する生徒は1年間。文系を選択する生徒は2年間または3年間で、芸大・美大を考えている生徒は、3年生で「美術表現」を選択して受講するのもよいでしょう。 楽しく個性的に創造性を発揮して美術を楽しんでいきましょう。	

美術Ⅰ 年間学習指導計画

学期 月	時 数	単元名・課題名	到達目標 学習のねらい
一 学 期	4月	2 ・オリエンテーション ・自己紹介	・学習のねらいと年間計画を学ぶ ・絵を描く事の楽しさを感じる
	5月	2 ・人物クロッキー	・デッサンの基本と形態の捉え方を学ぶ
		4 ・鉛筆デッサン 鉛筆による明暗や量感の表現	・素早く対象を的確に描く ・色々な視点で人体プロポーションと均衡を学ぶ
	6月	4 ・美術用語と画材の学習 アクリル絵の具の表現技法 ・色彩理論 色の三属性や三原色、 色の対比やトーン学習 色彩心理とカラーコーディネート	・美術用語を正しく理解する ・アクリル絵具の性質と使用方法を学ぶ ・色彩について知識理解を深める ・色彩と光が日常の生活と深く関わっていることを理解する ・色彩心理の基礎を学ぶ
		8 ・マスク（お面）の制作 ペーパースカラプチャーによるマスクの制作	・ペーパースカラプチャーの制作を通して、 デザインの基本的な「切る、貼る」等の技術を習得し、個性的なデザインのマスクに仕上げる。
		7月	4 ・切り絵の制作（カッティング 技法により切り絵を作成する）
7月	2 ・読書感想画	・読書感想画の描き方 描写と配置の方法	
8月		・読書感想画	・夏休みの宿題として読書感想画を仕上げる ・読書の感動を絵画で表現する技術を追求
二 学 期	9月	12 工芸～沖縄の陶芸 陶芸の制作過程の学習 たたら技法によるマグカップの制作	・沖縄の文化を理解し尊重する ・陶器制作を通して可塑性のある素材を体験する ・工芸の形態美と機能美を学ぶ
	10月	6 ・レタリング 基本書体とエレメントの学習 好きな言葉を基本書体で描く	・ゴシック体・明朝体の基本を学ぶ ・文字のプロポーションを学ぶ
	11月	10 ・デザイン（ポスターの制作） 各種ポスターの内容を選択する。（環境緑化、交通安全、文化財保護など）	・視覚伝達としてのポスターの意義や役割を理解し表現する。 ・視点や構図などのアイディアやコンセプトの重要性を理解し、個性や創造性を高める。 ・作成計画を綿密に行い、作成期限の厳守など実際のデザインの現場を想定した授業計
	12月	12 ・コラージュ自画像の制作 鉛筆による細密描写による自画像とコラージュを組み合わせた作品制作	・自分自身を見つめよく観察し表現する ・コラージュの技法を学び、作品に効果的に表現する技術や感性を学ぶ
	3月	2 ・学年末の反省 鑑賞・反省・評価	・学年末を振り返ることで反省課題を確認し美術Ⅱの学習活動に役立てる
計	70		

令和3年度 県立コザ高等学校 芸術科（美術Ⅱ）シラバス

教科名：芸術 科目名：美術Ⅱ	担当者：宮里義行
履修学年：2年（文系・芸術選択）	単位数：2単位
目 標	絵画・デザイン・立体・工芸などの造形的な創造活動を通して、美的体験を豊かにし美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、美術や工芸の文化についての理解を深め、個性豊かな美術の能力を高める。 （表現） ア 自然や自己、社会などを深く見つめた主題の生成 イ 心豊かな表現の構想と表現形式や材料・技法の活用 ウ 創造的な表現の追求 エ 生活を心豊かに創造する造形主題の生成 （鑑賞） ア 作品や作者の個性などについての多様な見方 イ 心豊かな生き方の創造に関わる美術と工芸の働き ウ 時代・民族・風土などによる表現の相違や共通性と美術文化
教 材	教科書： 光村図書 美術2 その他： 図録各種、参考図書、プリント教材等
授業方法及び形態	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書や図録、資料集などの視聴覚教材やプリント教材などを多面的に利用して、実技を中心とした造形学習を行います。 ・演習的な簡易作品の制作からスケッチやデッサン、平面や立体等の長期的計画による課題作品の制作など計画的に実施します。制作後は作品展示による鑑賞や、コンクール出品、展示会等への出品も行います。 ・作品制作の課題が提示されれば、各自資料及び材料等を収集し、アイデアスケッチ等の制作計画を綿密に行うこと。 ・作品提出の締切厳守を心がけること。そのためには、授業中での真剣な取り組みが必要であり、必要に応じて課外制作によって対応すること。 ・定期考査は期末考査のみ実施します。夏休みの宿題があります。
成績評価の方法	1 観点別評価に応じた実技課題（作品制作）の評価（約70%） 2 定期考査の得点や宿題・プリント等の提出物の評価（約30%） 3 毎授業の学習意欲や態度及び出席状況 <観点別評価> I 美術に親しみ、自ら進んで表現や鑑賞に取り組めたか。 II 感じたことや考えたことから豊かに発想し表現できたか。 III 表現技法の技能を高めたり、新しい技法を創意工夫できたか。 IV 作品の良さや美しさを感じ取ったり味わったりすることができたか。
担当者より	美術を選択した皆さん。これから1年間楽しく美術の授業を進めていきましょう。 美術とは、別の言葉で「造形」ともいいます。形を造ると書きます。平面や立体を問わず形を造るのです。目の前にある景色の形を写し取るだけではなく、自ら形を生み出していく。これが美術の本質です。ですから、「絵を描くのが苦手だ」という人でも、どんな形でもいいから、新しい形を造るという意識を持って頑張ってください。 文系を選択した皆さんは、今年度も2単位の芸術の授業がありますが、3年でも選択科目の中で美術Ⅲを選択することができます。美術Ⅲは少人数で、比較的専門的となり、特殊な材料を使うこともあって、中身が濃い授業となります。芸大や美大を受験したい生徒は是非選択して下さい。もちろんそれ以外の生徒でも、美術が好きな生徒であれば是非選択してみてください。 今年度も楽しく個性的で創造性を発揮して美術を楽しんでいきましょう。

美術Ⅱ 年間学習指導計画

学期 月	週 数	単元名・課題名	到達目標 学習のねらい
一 学 期	4月	2 ・オリエンテーション ・自己紹介	・学習のねらいと年間計画を学ぶ
	5月	6 ・平和へのメッセージ 平和をイメージする絵画制作	・恒久平和への願いを絵画で表現する ・描く楽しさを味わい絵画のメッセージ性と表現の技法を追求する
		4 ・表現の技法 コラージュ、デカルコマニー マーブリング、フロタージュ 等の表現技法の演習	・色々な表現技法を学ぶことで、自由な発送 や創造的表現の面白さを追求する ・各技法の技能を習得し、作品への応用力を 身につける
	6月	12 ・リズム構成 グラデーションによるリズム 感のある構成画の制作	・アクリルガッシュの着彩技術を学ぶ ・色帯を配列することでリズム感のある画面 を想像し構成的作品を制作する ・過去の作例にとらわれず個性的で創造的な 作品を追求する。
	7月	2 ・読書感想画	・読書感想画の描き方 描写と配置の方法
8月	・読書感想画	・夏休みの宿題として読書感想画を仕上げる ・読書の感動を絵画で表現する技術を追求	
二 学 期	9月	4 ・鑑賞～西洋の美術を学ぶ 名画の模写やレポートを作成 する 美術史プリントをまとめる 原始美術から現代美術、日本 美術史まで	・美術史を通して鑑賞の目を養う ・絵画の変革を画家のエピソードや作品を鑑 賞して学ぶ ・日本文化と西洋文化の違いと影響の関係を 学ぶ ・模写やレポート制作で作品を深く味わう ・近代から現代絵画の流れを通して芸術の社 会的役割を学ぶ・沖縄の文化を理解し尊重 する
	10月		
	11月	14 ・島ぞうりアートの制作	・沖縄の代表的な工芸作品になりつつある島 ぞうりアートの制作過程を学び、単純化し た個性的なデザインを表現する。 ・デザインカッターの正しい使い方を学び安 全に楽しく物づくりを行う態度を養う。
	12月	4 ・工芸～沖縄の陶芸 陶芸の制作過程、「オカリナ」 の制作	・陶器制作を通して可塑性のある素材を体験 し、立体造形としての表現を学ぶ ・オカリナの構造を理解し個性的な作品を目 指す。
三 学 期	1月	4 ・イラストレーションの制作 続き	・2年間の集大成として、個性を生かした表 現方法によって、創造性のあるイラストレ ーションを制作する。 ・イラストレーションの表現方法を学ぶ
	2月	6 ・アクセサリーの制作 ポリエステル樹脂を使用した フォトスタンドやストラップ の制作	・自由で個性的な表現方法を追求し、自分自 身の世界観を表現する。
	3月		・デザインと工芸の多様性と素材の特徴を学 ぶ ・工芸の機能美を追学び、工芸が豊かな精神 をはぐくむものであることを考える ・曲線の構成し、曲線美の美しさを追求する。
		2 ・学年末の反省 鑑賞・反省・評価	・学年末を振り返ることで反省課題を確認し 今後の創造活動に役立てる
	計	70	

令和3年度 県立コザ高等学校 芸術科（美術Ⅲ）シラバス

教科名：芸術 科目名：美術Ⅰ	担当者：宮里義行
履修学年：3年（文系・選択科目）	単位数：2単位
目 標	絵画・デザイン・立体・工芸などの創造的な諸活動を通して、生涯にわたり美術を愛好する心情と美術文化を尊重する態度を育てるとともに、感性と美意識を磨き、個性豊かな美術の能力を高める。 （表現） ア 独創的な主題の生成と表現形式の選択 イ 個性を生かす創造的な表現の追求 （鑑賞） ア 作者の生き方や主張と作品 イ 美術が国際間の理解や協調に果たす役割
教 材	教科書： 光村図書 美術Ⅲ その他： 図録各種、参考図書、プリント教材等
授業方法及び形態	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書や図録、資料集などの視聴覚教材やプリント教材などを多面的に利用して、実技を中心とした造形学習を行います。 ・本格的なデッサンや平面・立体構成。課題作品の制作。自ら課題を設定し課題を解決していく課題研究など計画的に実施します。制作後は作品展示による鑑賞や、コンクール出品、展示会等への出品も行います。 ・作品制作の課題が提示されれば、各自資料及び材料等を収集し、アイデアスケッチ等の制作計画を綿密に行うこと。 ・作品提出の締切厳守を心がけること。そのためには、授業中での真剣な取り組みが必要であり、必要に応じて課外制作によって対応すること。 ・定期考査は実施しません。夏休みの宿題があります。 ・美術関係大学や専門学校への受験対策等、個別進路指導にも対応します。
成績評価の方法	1 観点別評価に応じた実技課題（作品制作）の評価（約70%） 2 宿題やプリント等の提出物の評価（約30%） 3 毎授業の学習意欲や態度及び出席状況 < 観点別評価 > I 美術に親しみ、自ら進んで表現や鑑賞に取り組めたか。 II 感じたことや考えたことから豊かに発想し表現できたか。 III 表現技法の技能を高めたり、新しい技法を創意工夫できたか。 IV 作品の良さや美しさを感じ取ったり味わったりすることができたか。
担当者より	美術Ⅲは一般選択科目であることから、美術が特に好きな生徒たちが選択するだろうと思います。また少人数の授業になると考えられますので、作品も大型化となり、体験したことのない材料を使い、より専門的な内容になってきます。特に美術ⅠやⅡに比べても、作品制作の時間は短めとなり、放課後等の時間も活用しなければならないかもしれません。課題提出締切に間に合うように、努力する必要があると思いますので頑張ってください。 さて、美術Ⅲを選択した生徒は、三年間美術を続けてきたこととなります。芸大・美大に進む生徒以外は、今年で最後の美術の時間となるかもしれません。しかし、美術や音楽などの芸術科目は、卒業後でも学問として、趣味として続けていける生涯教育の一つでもあります。皆さんには生涯を通して、何らかの形で美術に関わって行って欲しいものだと願います。 今年度も個性的で創造性豊かに創作活動を楽しんでいきましょう。

令和3年度 美術Ⅲ 年間学習指導計画

学期 月	週 数	単元名・課題名	到達目標 学習のねらい
一 学 期	4 月	2 ・オリエンテーション ・ファイル制作	・学習のねらいと年間計画を学ぶ。 ・学習ファイルを制作し、授業で活用する。
	5 月	24 ・ビジュアルデザイン ～各種ポスターの制作～ 「愛鳥週間ポスター」「薬物 乱用防止ポスター」「家庭の 日ポスター」「高等学校総合 文化祭ポスター」などから選 択しポスターを制作する。	・材料収集からアイデアスケッチ、作品コ ンセプトを明確にし、ビジュアルデザイン (視覚伝達デザイン)の目的や役割を考えな がら制作を行う。 ・社会とデザインがどのような関わり合いを 持ち、日常生活の中でどのような役割を果 たしているか理解する。 ・アイデアや創造性を発揮し、個性的で独 創的な作品を追求する。
	6 月		
7 月			
	8 月		
二 学 期	9 月	10 ・読書感想画	・本の感動を絵画作品として表現する ・構成的・心象的作品を目指し、自由な表現 方法を追求する。
	10 月	18 ・ボックスアートの制作 絵画と立体を融合した空間表 現	・平面や立体を問わないアートの表現方法の 多様性を学ぶ。 ・決められた空間内にどのような世界観を表 現できるかを追求し、個性的独創的な表現 を目指す。
	11 月		
	12 月	4 ・工芸～沖縄の陶芸 電動ロクロの体験 手びねりによるランプシェー ドやオブジェの制作	・沖縄の伝統工芸としてのやちむんを学び、 郷土文化の尊重と理解を図る ・可塑性のある素材の体験と技術を習得する ・様々な技法の体験を通して、興味関心の深 化を図る ・各種技法・技術を体験する
		4 ・鉛筆デッサン 黒用紙白鉛筆によるハイライ ト描法	・形態と量感を捉える本格的な木炭デッサン を学ぶ。 ・美大受験対策
三 学 期	1 月	8 ・課題研究 自ら課題を設定し、計画から 制作・完成・発表までを行う	・企画力と実行力を養う ・表現技法について自ら深く学ぶ ・プレゼンテーションの能力を養う ・大学受験や進学対策に向けて取り組む
	2 月		・学年末の反省 ・作品集の制作、鑑賞 ・学年末を振り返り反省課題を確認し今後に 役立てる ・生涯において芸術を愛好する心情と文化を 尊重する態度を身につける
	計	70	

【沖縄県立コザ高等学校】 令和3年度 音楽Ⅰ シラバス

単位数	2単位	教科担当	西田 都
学年	第1学年		
使用教科書	音楽Ⅰ	教育芸術社	MOUSAⅠ

1 教科の目標

- ・音楽の幅広い活動を通して、生徒が個性を生かして思いや意図をもって表現したり味わって鑑賞したりする力を育成し、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てる。
- ・音楽が醸し出すよさや美しさなどを感じ取り、そこに質的な価値を見出せる感性を養う。
- ・音や音楽を知覚・感受し、思考・判断し表現する過程を通して創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。
- ・中学校音楽科の学習を踏まえ、楽曲固有のよさや美しさを味わうだけでなく、文化的・歴史的背景などの広い視野で音楽を捉えて、我が国及び諸外国の音楽文化の理解を深める。

2 育てたい生徒像

「音楽Ⅰ」では、生涯にわたって音楽を愛好していこうとする心情の育成を重視したい。そのため生徒一人一人が個性を生かして音楽の幅広い活動を行い、音楽のよさや美しさを感じ取って、感性を高めていくことが重要である。また、中学校音楽科の学習の上に思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力の深化や、音楽の文化的・歴史的背景などを踏まえて広く生活とのかかわりに関心をもつことなども大切となる。特に生徒が日頃から趣味として親しんでいる音楽だけの経験ではなく、授業の中で我が国及び諸外国の様々な音楽を幅広く学習することで、音楽に対する多様な観点を育成でき、主体性をもって永続的に愛好し、かかわりをもつことができるようになっていくと考える。

3 授業の内容と学習方法

- (1) 独唱・斉唱から合唱まで多様な表現形態を通して、日本語の歌詞及び諸外国の歌詞など、それぞれの文化的・歴史的背景を踏まえ、曲種に応じた発声にも気をつけて、創造的に歌唱表現する。
- (2) 郷土の楽器（三線）やギターの基礎的な奏法を身につける。また、独奏や重奏や合奏など声や楽器、身体表現を様々な表現形態で学ぶ。
- (3) 表現したい音楽のイメージをもって音や音楽の質感を感じ取り、音楽の仕組みを理解しながら、音を音楽に構成していけるよう創造的に創作する。
- (4) 西洋音楽史に沿って各時代の特徴を学んだり、鑑賞と表現活動を組み合わせて舞台芸術の世界を学んだりするなど、音楽の多様性や美しさに気づき創造的に鑑賞する。
- (5) 音楽を形づくっている諸要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、それらが楽曲をどのように特徴づけているかについて気づき、思考・判断して創造的な表現、鑑賞を行う。

評価について

- ・学期毎に実技テスト、ペーパーテストを実施
- ・提出物、授業での練習過程（出席率含む）も評価の対象となります。

【沖縄県立コザ高等学校】 令和3年度 音楽Ⅱ シラバス

単位数	2単位	教科担当	西田 都
学年・学級	第2学年1～4組（選択音楽）		
使用教科書	教育芸術社 MOUS A II		

1 教科の目標

- ・音楽の諸活動を通して、生徒が感性を働かせて個性豊かに表現したり主体的に味わって鑑賞したりする力を育成し、生涯にわたり音楽を愛好する心情を高める。
- ・音楽が醸し出すよさや美しさなどを感じ取り、そこに質的な価値を見出せる感性を高める。
- ・音や音楽を知覚・感受し、思考・判断し表現する過程を通して個性豊かな表現と主体的な鑑賞の能力を伸ばす。
- ・楽曲固有のよさや美しさを味わい理解するだけでなく、文化的・歴史的背景などの広い視野で音楽を捉えることで、音楽文化の理解を一層深める。

2 育てたい生徒像

「音楽Ⅱ」では「音楽Ⅰ」の学習を基盤として、生涯にわたって音楽の永続的な愛好心をはぐくむことを重視したい。そのため音楽のよさや美しさを感じ取り、質的な価値を見出していくための感性を高めていくことを基礎としていく。音楽の諸活動をするにあたっては生徒一人一人が個性豊かに表現したり、主体的に味わって鑑賞したりさせていく。その上で生徒自らが感性を働かせて音楽を形づくっている要素を知覚・感受し、その要素と働きを理解し、思考・判断して表現、鑑賞できるようにすることで、これまで以上に豊かな経験が積み重ねられ、感性的な認識が一層深まっていく。また、音楽の文化的・歴史的背景など広い視野で音楽を捉え、特に我が国や郷土の伝統音楽を取り上げて生徒自身と音楽とのかかわりに関心をもたせ、音楽文化の理解を深めたい。

3 授業の内容と学習方法

- (1) 独唱・斉唱から合唱まで多様な表現形態を通して、日本語の歌詞及び諸外国の歌詞のものなど、それぞれの文化的・歴史的背景をふまえ、曲種に応じた発声の特徴と表現上の効果とのかかわりを理解して、個性豊かな歌唱表現をする。
- (2) 我が国及び郷土の伝統音楽や世界の各地域の諸民族の音楽の特徴を知り、音楽のよさや美しさなどの特徴について理解を深める。
- (3) 個性豊かな表現に必要な和楽器やギター、ハンドベルなどの奏法を身につける。また、独奏や重奏や合奏、声や楽器を組み合わせた表現、身体表現など様々な表現形態で学ぶ。
- (4) 表現したい音楽のイメージをもって音・音楽の質感を感じ取り、音楽を形づくっている要素とその働きを理解しながら、音を音楽に構成していけるよう創造的に創作する。
- (5) 演奏形式による楽曲の特徴を学んだり、鑑賞と表現活動を組み合わせた舞台芸術の世界を学んだりするなど、音楽表現の多様性や美しさに気づき、主体的に鑑賞する。
- (6) 音楽を形づくっている諸要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、それらが楽曲をどのように特徴づけているかについて理解し、思考・判断して創造的な表現、主体的な鑑賞を行う。

評価について

- ・学期毎に実技、ペーパーテストを実施
- ・提出物、授業での練習過程（出席率含む）も評価の対象となります。

令和3年度 音楽Ⅲ シラバス

単位数	2単位	教科担当	西田 都
学年		第3学年	
使用教科書		音楽Ⅲ 教育芸術社	

1 教科の目標

- ・音楽の諸活動を通して生涯にわたり音楽を愛好する心情と音楽文化を尊重する態度を育てるとともに、感性を磨き、個性豊かな音楽の能力を高める。

2 育てたい生徒像

「音楽Ⅲ」では、生涯にわたり音楽を愛好し、音楽Ⅰ、Ⅱで理解を深めた音楽文化について、更に次の段階である生涯にわたり音楽文化を尊重する心を育てたい。また、目標の最終的到達点として、表現・鑑賞を包括する能力として「個性豊かな音楽の能力」を育てたい。

3 授業の内容と学習方法

- (1) 様々な音素材の表現効果を生かした構成を工夫し、様々な、様式や演奏形態の特徴を理解し、表現意図をもって個性豊かに音楽を作る活動を行う。
- (2) 楽曲の表現内容を総合的に理解し、表現意図をもって創造的に演奏する活動を行う。
- (3) 楽曲、作曲者の地域・歴史的理解を深める鑑賞の学習を体系的に行う。
- (4) 我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について調査レポートなどにまとめ、プレゼンテーションを行う。

4 評価の観点

観 点	
関心・意欲・態度	自分が表現したい意図を明確にもち、曲種に応じた発声を活かす技能などを応用しながら工夫する。
音楽表現の創意工夫	知覚・感受しながら、表現内容を総合的に理解して音楽表現を工夫し、表現意図をもつ。
音楽表現の技能	音楽表現の多様性を総合的に理解し、表現意図をもって音楽表現するために必要な技能を身に付け、創造的に表している。
鑑賞の能力	音楽と他の芸術や文化とのかかわりを理解して鑑賞する。 生活及び社会における音楽や音楽に関わる人々の役割を理解して鑑賞する。

芸術科 書道 I 授業シラバス

教科	科目名	単位数	学年	学級
芸術科	書道	2	1 学年	1～9

1 学習目標

学習の到達目標	書道を楽しむ態度をとおして感性を豊かにし、さまざまな場面に対応する書写能力を高め、表現と鑑賞の基礎的な能力をのばしていく。		
使用教科書・副読本等	教育出版 「書道 I」	学習形態	1 クラス 2 展開

2 学習計画

< 評価の観点 > 1 関心・意欲・態度 2 話す・聞く能力 3 書く能力 4 読む能力 5 知識・理解

学期	月	学習内容	学習のねらい	考查等
1 学期	4	書道の学習を始めよう	執筆法・用筆法や用具・用材について知り、書道の学習における基本的な事項を理解します。	1 学期期末考查
	5	漢字仮名交じりの書の学習 (一)	身近な言葉や詩文を題材に、漢字と仮名の調和を図り、用具・用材や字形・文字の大きさ等の全体構成を工夫して、自分の意図に基づく表現の方法を学びます。	
	6	漢字の書 楷書の学習	漢字の楷書の古典に基づく学習により、書の多様な表現の可能性にふれます。 代表的な楷書の古典を鑑賞し、それぞれの古典について作者や時代背景などの知的理解をします。	
	7		基本的な点画や線質の表し方と、用筆・運筆の関係を、臨書学習により習得します。 これらの活動を総合し、各古典の特徴を把握し表現する方法を学びます。	
2 学期	9	行書の学習	行書の特徴について理解します。 代表的な行書の古典を鑑賞し、作者や時代背景等に関する知的理解を経て、臨書学習により各古典の特徴を把握することにより行書の基本的な用筆法を習得します。	2 学期期末考查
	10	楷書・行書による創作	学習した楷書または行書の古典を題材とし、習得した技法を生かして創作を行います。 姓名印を刻し創作作品に押印します。	
	11	仮名の書の学習	わが国独自の文字である仮名について、成立過程と字源について理解します。 平仮名を中心とした仮名の筆使いに慣れ、基本的な用筆法を習得します。	
	12		平仮名、変体仮名の字源を理解し、それぞれの文字が持つもつ本来の字形に配慮しながら仮名の基本的な用筆法を習得します。 連綿の分類について理解し、連綿の用筆法を習得します。	
3 学期	1		仮名の古典の学習により、各古典の特徴を把握し、用筆法を習得します。 代表的な古筆を鑑賞し、それぞれの古典について、作者や時代背景などの知的理解をします。 連綿や線質の表し方と、用筆・運筆の関係を、臨書学習により習得します。	
	2	漢字仮名交じりの書の学習	これまでに学習した漢字及び仮名の古典の学習をもとに、その表現応用した漢字仮名交じりの書の創作を行います	
	3		詩文、形式、用具、用材、構成などを工夫し、漢字と仮名の調和の方法を考え、自分の感性をどのように表現していくかについて考えます。	

【年間の評価】

- ・平常点（授業への取り組み・出席・授業態度・作品提出状況等）を 6 割とする。
- ・学期末テストの素点を 3 割とする。
- ・プリントの素点を 1 割とする。

学習アドバイス

- 書道の学習においては良く見ることが大切。自らの感受性に基づき対象となる作品や古典の美について直観的な把握を試みたい。
- 技法の習得は主として古典の臨書によるが、一枚一枚、一字一字に自分の解決すべき課題や問題を見極めながら練習する習慣を身につけたい。
- 創作においては「自分は何を表現したいか」を大切に、詩文や用具などを積極的に選択していきたい。

芸術科 書道Ⅱ 授業シラバス

教科	科目名	単位数	学年	学級
芸術科	書道	2	2 学年	1～4

1 学習目標

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・表現と鑑賞を有機的に関連させて展開される書道の創造的な諸活動をとおして書を愛好する心情を育てるとともに感性をさらに高めていく。 ・書の文化や伝統について理論的な側面を含めて理解を深め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばしていく。 		
使用教科書・副読本等	教育出版 「書道Ⅱ」	学習形態	2 クラス 3 展開

2 学習計画

< 評価の観点 > 1 関心・意欲・態度 2 話す・聞く能力 3 書く能力 4 読む能力 5 知識・理解

学期	月	学習内容	学習のねらい	考查等
1 学期	4	一 篆書の学習	篆書とはどのような書体かを知り、歴史的な位置づけを理解します。 泰山刻石の鑑賞と臨書をとうして、篆書（小篆）の特徴を理解し基本的な用筆・運筆、結構を習得します。 召尊の鑑賞と臨書をとおして、金文の基本的な用筆・運筆、結構を習得します。	1 学期 期末考查
	5	二 篆刻・刻字の学習	学習した古典の表現を生かし、篆書の作品を創作します。 作品に対する効果を考え、姓名印を刻り、押印します。	
	6	三 隸書の学習	隸書とはどのような書体かを知り、歴史的な位置づけを理解します。 乙瑛碑の鑑賞と臨書を通して隸書の基本的な用筆・運筆、結構を習得し、その特徴を理解します。	
	7	隸書による創作と作品の鑑賞	漢代木簡の鑑賞と臨書をとおして木簡の基本的な用筆・運筆、結構を習得します。	
2 学期	9		草書の成立と歴史的な位置づけを理解します。 基本的な草書の学習により、草書の特徴を把握します。 書譜、十七帖の鑑賞と臨書をとおして草書の基本的な用筆・運筆、結構を習得し、両古典の比較により、それぞれの特徴を把握し草書による表現の多様性理解します。 書道Ⅰの学習を基に、行書に対する興味・関心をふかめ歴史的な位置づけを理解します。 さまざまな行書の書風を鑑賞し、行書の表現の多様性を理解します。 集王聖教序・祭姪稿・枯樹賦の臨書をとおしてその表現方法を習得します。 草書または行書の表現を生かし、自から題材を選んで創作を行います。	2 学期 期末考查
	10		書道Ⅰにおける学習を基に楷書の多様な表現に触れ、自から個性を生かす古典を選択して学習を深めます。 学習した古典の表現を生かし、題材や形式を選択して創作を行い相互に鑑賞批評を行います。	
	11	仮名の書の学習	書道Ⅰの学習を基に、仮名の種類、特に変体仮名の種類について学習し、理解を深めます。	
	12		仮名の書の臨書（主として高野切第一種）や鑑賞をとおして表現技法を習得し、短冊や散らし書き等の形式についても理解を深めます。	
3 学期	1		2 学期の学習を基に仮名の書による創作を、題材や形式を選択して行います。	
	2	漢字仮名交じりの書の学習	詩文、形式、用具・用材、構成などを工夫し漢字と仮名の調和の方法を考え、自分の感性を表現する最良の方法を模索します。	
	3		これまでの漢字及び仮名の学習を基に漢字仮名交じりの書の創作を行います。	

【年間の評価】

- ・平常点（授業への取り組み・出席・授業態度・作品提出状況等）を6割とする。
- ・学期末テストの素点を3割とする。
- ・プリントの素点を1割とする。

学習アドバイス

- ・自らの感性に基づき作品や古典の書美について直観的な把握を試み用具・用材・構成、また作者や「時代背景といった様々な要素について考え、分析する姿勢で試みたい。
- ・技法の習得においては自分の解決すべき課題や問題点を見極めながら練習する習慣を身につけたい。
- ・創作においては詩文や用具・表現形式などについてより効果的なものを積極的に選択したい。

芸術科 書道Ⅲ 授業シラバス

教科	科目名	単位数	学年	学級
芸術科	書道	2	3 学年	文系選択

1 学習目標

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・表現と鑑賞を有機的に関連させて展開される書道の創造的な諸活動をととして書を愛好する心情を育てるとともに感性をさらに高めていく。 ・書の文化や伝統について理論的な側面を含めて理解を深め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばしていく。 		
使用教科書・副読本等	教育出版 「書道Ⅲ」	学習形態	

2 学習計画

<評価の観点> 1 関心・意欲・態度 2 話す・聞く能力 3 書く能力 4 読む能力 5 知識・理解

学期	月	学習項目	学習内容	考查等
1 学期	4	一 書之美を求めて	書道3の学習への導入を図り、学習態勢を整える。 書の学習の在り方や芸術についての理解を深め、文化との関わりの中で伝統的文化を尊重し、育成する態度を養う。	
	5	Ⅱ 楷書	楷書の美しさの多様さを知らせる。さまざまな結構法、用筆法を学び創作活動を視野に入れた臨書指導を行う。	
	6	Ⅲ 行書・草書	李柏尺牘稿と喪乱帖の二つの作品と比較して、その違いはどこから感じられるかを話しあう。書譜の優れた古典臨書を学ぶことで、高度な運筆や表現方法を学ぶ。	
	7		時代の変遷と共に宋代名家の作品から個性化、多様化された表現を学ぶ。	
2 学期	9	二 漢字の書の学習 Ⅰ 篆書・隸書	漢字の書流れを概観し、それぞれの書体の持つ特徴や美について理解を深める。 泰山刻石などの果たした意義を理解させる。小篆を用いて楽しく表現する意欲と態度を育てる。	
	10		篆書から隸書への変遷を学び用筆や運筆を構成により一層理解を深め、張遷碑や乙瑛碑など鑑賞し創作作品の表現の幅をひろげる。	
	11	三 仮名の書の学習	中国の漢字を基にしてきた仮名の過渡的な姿を理解する。 和様独特の温雅な書風を味わう。 たくさんの古典に触れ仮名独特の空間や体裁を学ぶ。 表現技法の追求から、それらから離れた表現への理解を深めさせる。	
	12		中国の漢字を基にしてきた仮名の過渡的な姿を理解する。 和様独特の温雅な書風を味わう。 たくさんの古典に触れ仮名独特の空間や体裁を学ぶ。 表現技法の追求から、それらから離れた表現への理解を深めさせる。	
1	四 漢字仮名交じり書の学習	精神の躍動としての言葉と書表現の関連について考えさせ用具用材の工夫により楽しく幅広い表現を学ぶ。 言葉をいかしきった書が、豊かな日常生活にどのように寄与するか考えさせる。		
3 学期	2	五 篆刻・刻字の学習 Ⅰ 篆刻	篆刻への関心を深め、多様な表現を試みる。 身のまわりの書文化への理解を深め総合的な視点で書を把握し積極的に日常生活に取り入れていく態度を育成する。	
	3	Ⅱ 刻字	創作の手順に従い、刻字作品を制作する。 創作参考作品を鑑賞する。	

【年間の評価】

- ・平常点（授業への取り組み・出席・授業態度・課題の提出状況等）を6割とする。
- ・作品提出物の素点を3割とする。
- ・プリントの素点を1割とする。

【学習アドバイス】

- ・自らの感性に基づき対象となる作品や古典に素直な気持ちで向かう。
- ・技法の習得においては自分の解決すべき課題や問題点を見極めながら練習する習慣を身につけたい。
- ・創作においてはなどについてより感興に応じた表現を目指し、詩文や用具・表現形式などについてより効果的なものを積極的に選択したい。
- ・得られた感性は何に由来するものか、用具・用材・構成、また作者や時代背景といったさまざまな要素について考え分析する。